

# 『 禅のころ - 曹洞宗 - 』

こくうそうぼさつ  
虚空蔵菩薩

平成28年7月第3週放送

虚空蔵菩薩は、何の妨げも受けずに存在し機能することができる無限の空間である「虚空」のはたらきにより、限りない智慧と福德をもたらす菩薩といわれています。そのお姿は、頭には冠を頂き、右手に宝剣、左手に宝珠を持ち、蓮華座に坐しています。

虚空蔵菩薩を信じ、その名を一日一万回 百日間唱えたと、強力な記憶力が授かるという「求聞持法」(ぐもんじほう)という修行法が八世紀に始まり、天平時代に日本に伝わると、学業成就の菩薩として信仰を集めるようになりました。

お釈迦さまの教えは、口で唱え暗記をすることで伝えられました。仏教の伝来に、記憶力は欠かせないものだったのです。

虚空蔵菩薩の功德を信じ、たくさん覚えたい、記憶力を高めたいという信仰は、古来連綿と続いており、寺小屋が発達した江戸時代に、後に関西地方で定着した「十三参り」という行事が生まれました。「知恵参り」とも呼ばれ、数え歳十三歳の時にお参りをし、半紙に一文字を書いてお寺に納めて御祈禱を受け、虚空蔵菩薩から智慧を授かるという行事となりました。

さて、私達は今まで受験や試験などの度に、一生懸命暗記に励んできました。それは時に一夜漬けであったりやマを張ったりと、試験を通過するための一時しのぎではなかったでしょうか。実際、どれほどが頭に残っているか、今やその努力の空しさを感じない訳には参りません。それは、迷いを離れておさとの道を歩むためにお釈迦さまや歴代の祖師方の一言一句を、頭だけではなく心に刻んできた修行者の姿とはあまりに対象的です。

今までは、人間の脳細胞は年齢とともに減少するとされていました。しかし、最近の研究では、記憶を司る「海馬」は、鍛えることで細胞が増えるといわれています。

その昔の修行者のように、経典を暗記することも不可能ではありません。

お釈迦さまは、おさとりを開かれてからお亡くなりになるまでの四十五年の間、そのお示しを遺されたのです。自分の生き方にぴったりな教えがきっとあります。

虚空蔵菩薩への信仰と共に、今こそ仏教の経典に親しもうではありませんか。

— 終 —